

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの折り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。

◎「石叫」◆

「津田塾大学」①

一八七一年十二月、明治政府は「友好親善・文物視察・調査」を目的に欧米に岩倉使節団を派遣。一行と共に女子留学生五人が随行することになった。彼らは官費留学生で、それぞれ永井繁子(10)、上田貞子(16)、吉益亮子(16)、津田梅子(6)、山川捨松(11)。梅子は当時六才で使節団最年少だった。開拓次官・黒田清隆はアメリカ訪問時に男女平等・女子教育の必要性を実感した。そこでアメリカ派遣事業を知った津田仙は梅子を応募させた。その結果、募集に応じた女子五名を開拓使が推挙し、当時の政府によって承認された。

女子留学生達は一八七二年五月にワシントンDCに移り住んだ。だが十月には貞子と亮子は眼病とホームシックの為に帰国し、残った三人が梅子、山川捨松、永井しげである。この三人は生涯親しくしていて、梅子がのちに「女子英学塾」(のちの津田塾大学)を設立する際にも、二人は援助を惜しまなかった。

* (山川捨松は、のちの大山捨松・陸軍中将の大山巖の後妻で大学を卒業して学士号を得た最初の日本人女性)、(永井しげは、のち海軍大将・瓜生外吉の妻となる。日本最初のピアニスト。お茶の水女子大学及び東京芸術大学教授)

梅子は滞在していたランマン家は、梅子を娘同様に愛した。彼らの感化で一八七三年にフィラデルフィアの独立教会で洗礼を受けている。一八八二年十一月に三人は十年振りに日本へ帰国。梅子が帰国した一八八〇年代における女子教育は、良妻賢母の育成が主であったが、梅子は学問重視の女子高等教育機関を創設する事を決意する。現在、津田塾大学は誕生して百二十年が経過した。

梅子の最大の功績は日本の女子教育の先駆者となった事である。梅子は一八八九年に二度目の留学を果たし、フィラデルフィアにあるクエーカーのプリンマー大学で生物学を専攻。質の高い教育環境、少人数教育などの方針は女子英学塾にも大きな影響を与えている。第二の功績はプリンマー大学在学中に、「日本女性が留学する為の奨学金制度」を企画し、公演や募金活動を行っている。一八九一年に梅子は帰国し、奨学金制度を利用して、計二十五人がアメリカ留学を実現させている。その一人、梅子の後任として一九二九年に塾長に就任し、約三十年間にわたり津田塾の運営を担った星野あいについて語ることにしよう。

Rev. Tsukasa Sugimura